

【計画名：徳島県文化観光推進地域計画】

①計画目標の達成状況

目標項目名(単位)	R2			R3			R4		R5		R6	
	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	目標	実績	目標	実績
①来訪者の満足度(日本人)(%)	23	52	113%	24	54	112%	25		25		25	
②来訪者の満足度(外国人)(%)	23	—	—	24	—	—	25		25		25	
③来訪者数(日本人)(万人)	1,920	1,120	55%	1,937	1,111	54%	1,954		1,954		1,954	
④来訪者数(外国人)(万人)	100	—	—	108	—	—	116		116		116	
⑤中核とする文化観光施設・合計来館者数(日本人)(万人)	100	105	104%	164	106	62%	177		183		190	
⑥中核とする文化観光施設・合計来館者数(外国人)(万人)	0.9	—	—	7.5	—	—	8.5		9.3		10.1	
⑦延べ宿泊者数(全体)(万人)	270	132	49%	285	160	56%	300		300		300	

③計画で取り組んだ事業の進捗状況

事業番号	事業名	R2	R3	事業類型毎の実績額
事業1-①	県立博物館「新常設展」構築事業	常設展のリニューアル着手	常設展のリニューアルを完了、公開	30.4百万円
事業1-②	デジタル技術(AR、VR等)による展示設備・コンテンツの整備	—	デジタル視からくり上映システムの導入、農村舞台VR及びあわ文化映像を制作	
事業1-③	既存の形態にとらわれない新次元の博物館の創出	—	木偶人形の3Dデータによるデジタルアーカイブの整備	
事業1-④	展示内容の適切な解説や多言語化等、来訪者の利便性向上に向けた人材確保及び設備の設置	中止	日英の対訳展示パネルを設置、専門家による浄瑠璃床本等の英訳・活用	
事業2-①	文化観光来訪者の移動に係る利便性向上事業	中止	水上タクシ-の運航、運航システムの開発	3.7百万円
事業3-①	文化観光の経済効果を高める地域連携	中止	遊山箱と阿波人形浄瑠璃を組み合わせたツアーを実施	0.5百万円
事業3-②	文化観光に関する観光業界との連携強化	中止	四国デスティネーションキャンペーンに合わせたPRを実施	
事業4-①	県立博物館ウェブサイトリニューアル事業	—	県立博物館ウェブサイトのリニューアルを実施	4.0百万円
事業4-②	徳島県文化観光推進普及啓発・発信事業	中止	文化観光広報に係る映像制作、Web発信	
事業4-③	吉野川・三大あわ文化の国内外発信	中止	秋の阿波おどり公演を実施	
事業5-①	Wi-Fi、キャッシュレス、バリアフリー整備事業	—	翻訳した字幕表示システムの導入	1.9百万円
各年度ごとの実績額→		0百万円	40.5百万円	40.5百万円

②計画目標の達成状況に関する分析・評価

<p>(分析)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長引く新型コロナウイルス感染症の影響により来県者が減少しているため、全体的に目標値を下回った。 ・中核とする文化観光施設への来館者数は、「藍の館」が休館中にもかかわらず、令和2年度と比べ令和3年度は増加した。計画の効果があったと考えられる。 <p>(評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標①②については、目標を達成した。 ・目標③④⑤⑥⑦については、新型コロナウイルス感染症の影響により、達成できていない。 ・目標②④⑥については、新型コロナウイルス感染症の影響によりデータが取れていない。

④事業の進捗状況に関する分析・評価

<p>(分析)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業1-④、5-①で実施した英語の字幕や展示室の解説は、外国人来館者から理解の助けになったという意見をいただいた。このことにより、浄瑠璃の床本を専門家の協力で英訳したことについても、来館者だけでなく海外公演やネットによる動画配信における効果が期待できる。 ・事業2-①により構築した運航システムについて、予約機能の充実など、利用者のニーズに対応したコンテンツとなるように機能の見直しを行った。水上タクシ-の航路を阿波十郎兵衛屋敷まで拡大したことで、人形浄瑠璃に関心の薄い人の来館が期待できる。 ・事業3-①によりあわ文化として個別に発展してきた遊山箱と人形浄瑠璃をセットにしたツアーは、申込みが殺到し、相乗効果を発揮したと言える。 <p>(評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業は計画どおり実施できた。 ・事業1-④については、新型コロナウイルス感染症の影響により、来訪者が日本在住の外国人に限られたため、効果が限定的となった。
--

⑤拠点施設の要件に関する取組状況

	↓文化観光拠点施設名				
要件	徳島県立博物館（文化の森総合公園）	徳島県立阿波十郎兵衛屋敷	阿波おどり会館	藍住町歴史観 藍の館	徳島県立大鳴門橋架橋記念館
・文化資源の魅力に関する情報を適切に活用した解説・紹介	・常設展のリニューアルにより、徳島の文化資源を包括的に紹介した。 ・企画展「徳島お札コレクション」や特別陳列「徳島まるづかみ展」の開催により、注目すべき文化資源についてわかりやすく紹介した。	・阿波人形浄瑠璃は、アマチュアの郷土芸能であり、背景にある地域の風土や歴史、産業、人々の暮らしと合わせて見せることで、大きな魅力を発揮するため、歴史的背景も含めた展示解説や映像紹介を行った。	・阿波おどりの起源から現代までの遷り変わりを展示資料、ジオラマ、実際に使われていた楽器等を紹介。	・展示品の並べ替えを行い、展示パネルを新規に作成することによってストーリーのある展示へと改善を行った。	・「吉野川・あわ文化」を体感できるイベントとして、藍染活動をされている地元の方に講師をお願いし、「藍の生葉染め体験」を実施した。
・情報通信技術の活用を考慮した適切な方法を用いた解説・紹介	・スマートフォンなど多様な情報端末での使用を想定して、ホームページを更新した。 ・SNSを利用して、博物館や博物館資料の解説・紹介を行った。 ・スマートフォン及び貸出タブレットを用いたガイドアプリ（多言語によるものや手話によるものなど）による解説・紹介を行った。 ・Bluetooth通信による展示室内の解説のプッシュ通知を実現した。	・農村舞台の舞台機構を劇場で見られるように、デジタル機からくり上映システムを導入した。 ・3Dプリンターで出力した人形を触れる展示として活用。QRコードを読み取ることで、内部構造までも精巧な3Dアニメーションで見られるような、新しい展示方法を行った。 ・WEBにて英語字幕入りの動画を配信するなど、インターネットによる情報発信を行った。	・阿波おどりの公演をオンラインで配信した。 ・QRコードを使って展示解説を多言語(英語・繁体語・簡体語)翻訳で紹介をした。 ・タブレット端末で対面通訳システムを利用した案内サービスを実施。 ・踊り公演の解説を翻訳し、演出の流れに合わせバックスクリーンにプロジェクターで照射し解説、説明を行っている。	・スマートフォンを活用し、日本遺産の構成文化財を案内・解説する藍のふるさと阿波スマートガイドを整備した。	・常設展示「360°4Kシアターawa」にて、阿波おどりの映像を活用した魅力発信を行い、実際の阿波おどりへの誘致ツールとした。
・外国人観光旅客の来訪の状況に応じて、適切に外国語を用いた解説・紹介	・外国人向けパンフレット（英語）を作成し、配布した。 ・多言語（日・英・繁体・簡体・韓）に対応したガイドアプリを用いた解説・紹介を行った。	・人形浄瑠璃に精通した専門家の協力を得て、浄瑠璃の床本や人形浄瑠璃のあらすじなどを英訳し、展示室の解説パネルや舞台の字幕、SNSやWEBでの情報発信に活用した。	・外国人向けパンフレット(英語・繁体語・簡体語)を作成し配布した。 ・QRコードを使って日本語解説を多言語(英語・繁体語・簡体語)に対応した。 ・タブレット端末で対面通訳システムを利用した案内サービスを実施。	・展示パネルを新規作成するに当たり、英語、韓国語、中国語（簡体字・繁体字）の解説文を整備した。	・館内案内や展示等、各種掲示物の多言語化更新に向けて準備を進めた。具体的には、当館利用インバウンド客は東アジアからが90%を占めているため、英語、韓国語、中国語（簡体字・繁体字）の解説内容を中国人の職員や海外での勤務経験がある職員を中心に見直しを図った。
・文化観光の推進に関する多様な関係者との連携体制の構築	・イースト徳島観光推進機構や、県観光協会と連携し、県内外からの来館者誘致を図った。 ・リニューアルに合わせ、イーストとくしま観光推進機構サイトで特集記事を作成し情報発信を行ったほか、外国人来館者からいただいた外国語標記に関する展示の要望について情報提供を行った。	・デジタルアーカイブの整備は、自動車メーカーの仕事を請け負う3Dデータ作成の専門家と協力した。 ・映像制作については、都会から移住し地域の伝統文化に関心を寄せる映像作家に委託した。撮影にあたっては、農村舞台の保存会と協力した。 ・水上タクシーの運航については、NPO法人と連携した。 ・四国運輸局事業において、アフターコロナにおいて需要の高まるアドベンチャーツーリズムに対応したコンテンツ造成を、イーストとくしま観光推進機構と連携して実施した。	・徳島県と連携しオンラインでの配信、また秋の阿波おどりにおけるプレイベントの実施 ・イースト徳島観光推進機構と連携し、県内外からの来館者誘致を図った。	・日本遺産事業を推進するために、吉野川下流域の9市町と観光関係の民間団体5団体で構成し設立した藍のふるさと阿波魅力発信協議会に藍住町が参加しており、相互に連携する体制を構築。	・旅行会社の一般会員向けにオンラインツアーを実施。東京と鳴門市とを結び、アフターコロナに向けた誘致活動を行った。 ・イーストとくしま観光推進機構と連携し、観光庁事業において鳴門公園周辺エリアにおける観光型MaaSの実証実験を行い、大鳴門橋架橋記念館のデジタルチケットを販売した。
・文化観光の推進に関する各種データの収集・整理・分析	・ホームページのアクセスデータを分析した。 ・SNSのアクセス状況を分析し、コンテンツの企画の参考とした。 ・利用者に対するアンケート調査やヒアリングにより、常設展の成果と課題を検証し、改善策の検討に活用した。	・施設への来館者アンケートや、水上タクシーの利用者アンケートを行い、改善策の検討に活用した。 ・外国人来館者に英語字幕や展示室の英文表記について直接ヒアリングを行った。	・来館者アンケートや利用者アンケートを行い、改善策の検討に活用した。	・藍住町において、令和3年度から文化財保存活用地域計画の作成を3か年計画で進めている。 ・地域の歴史文化、それらの活用についてのアンケートやワークショップを行い、情報収集を行った。	・『鳴門海峡の渦潮を世界遺産へ』の取組みに向けて、NPO法人の関係者の視察を実施。今後、渦潮の世界遺産登録に向けて、関係者と連携し、資料等を作成する。
・文化観光の推進に関する事業の方針の策定及びKPIの設定・PDCAサイクルの確立	・誘客方針について、検討を進めている。 ・イーストとくしま観光推進機構等DMOと連携した、①観光地域づくりの方向性・情報の共有、②多様な事業の調整等のマネジメント機能及び各調査などにより観光客の実態を把握し旅行商品やサービスに反映させるマーケティング機能の実現について、検討。	・事業方針としては、阿波人形浄瑠璃がアマチュアの芸能であることから、地域の風土や歴史、産業、暮らしなど、その背景とともに見せることで徳島の総合的な魅力を楽しめることを目指す。 ・成果指標としては、来館者数及び来館者の満足度を設定。 ・イーストとくしま観光推進機構等DMOと連携した、①観光地域づくりの方向性・情報の共有、②多様な事業の調整等のマネジメント機能及び各調査などにより観光客の実態を把握し旅行商品やサービスに反映させるマーケティング機能の実現について、検討。	・イーストとくしま観光推進機構等DMOと連携した、①観光地域づくりの方向性・情報の共有、②多様な事業の調整等のマネジメント機能及び各調査などにより観光客の実態を把握し旅行商品やサービスに反映させるマーケティング機能の実現について、検討。	・藍住町において、文化財保存活用地域計画を作成中（令和3年度～5年度）。令和6年度の認定を目指す。 ・イーストとくしま観光推進機構等DMOと連携した、①観光地域づくりの方向性・情報の共有、②多様な事業の調整等のマネジメント機能及び各調査などにより観光客の実態を把握し旅行商品やサービスに反映させるマーケティング機能の実現について、検討。	・博物館協議会等の参加により、他館の取組みを情報共有を行う。 ・イーストとくしま観光推進機構等DMOと連携した、①観光地域づくりの方向性・情報の共有、②多様な事業の調整等のマネジメント機能及び各調査などにより観光客の実態を把握し旅行商品やサービスに反映させるマーケティング機能の実現について、検討。

⑥観光関係者（DMOなど）からの評価

（イーストとくしま観光推進機構）
 ・事業2-①（水上タクシー事業）は、本計画の実施により、更なる航路拡充に向けた地元自治体の機運醸成に寄与する効果があった。文化施設への魅力あるアクセスに留まらず、周辺市町村にもエリアを拡大していくことにより、徳島県東部の観光の新たな基盤となるものである。
 ・県立博物館については、外国人への対応に課題が残るものの、概ね順調に実施できている。
 ・県立大鳴門橋架橋記念館については、鳴門公園全体として観光資源は多くあるが、より裨益性の追求をすることで滞在時間の延長化＝顧客満足度の上昇に繋がる。記念館エディにおいても同様に滞在時間が平均して短く、お客様がもっと滞在したいと思っただけのコンテンツ作りや展示手法が必要である。
 ・目標値と実績値の乖離が大きくなった原因については、長引く新型コロナウイルス感染症の影響により、全国的に宿泊者、来訪者数が想定よりも大きく減少したと考えられる。

⑦今後の改善の方向性

・事業2-①（水上タクシー事業）については、徳島の文化観光の基盤として、文化観光推進事業の事業期間内に自走していくための体制を確立する。
 ・県立博物館関連の事業としては、今後、AR・VR等の館内コンテンツ及び「仮想博物館」等のデジタルコンテンツの拡充、外国人ツアー向けのガイドマニュアル作成を行う。
 ・県立大鳴門橋架橋記念館については、立地条件から、京阪神からの来訪者に「あわ文化」の情報発信場所として存在意義を発揮し、最初の訪問地になるよう広報展開を行う。
 ・各事業の効果を把握するため、各館の来訪者に対して目的を絞ったアンケート調査をきめ細かに実施する。
 ・地域の風土や歴史、産業、暮らしとの関わりの中で、阿波人形浄瑠璃など徳島ならではの文化資源を捉え、地域の総合的な魅力を伝える「観光資源」としてさらに活用していく。